

東京学芸大辟雍会機関誌

# Hekiyou

2023 vol.20



辟雍



能登半島地震にて  
被害に遭われた皆様に  
心よりお見舞い申し上げます

東京学芸大辟雍会機関誌

# Hekiyou

2023 vol.20

## 目次

|                      |       |    |
|----------------------|-------|----|
| ● 会長挨拶               | 長谷川 正 | 2  |
| ● 沿革                 |       | 3  |
| ● 支部設立状況・支部便り        |       | 4  |
| ● 支部連絡先一覧            |       | 11 |
| ● 会員から①              | 杉山 宏樹 | 12 |
| ● 会員から②              | 近野 洋平 | 14 |
| ● 会員から③              | 赤尾 綾子 | 16 |
| ● 会員から④              | 小澤 大心 | 18 |
| ● 東京学芸大学創基 150 周年記念事 |       | 20 |
| ● 辟雍会と東京学芸大学の共催事業    |       | 22 |
| ● 特別寄稿               | 馬淵 貞利 | 24 |
| ● 2023 年度各部の活動       |       | 26 |
| ● あとがき               |       | 28 |



森の水車（元学校法人竹早学園理事長 吉田裕美氏寄贈）



# コロナ禍を超えて

2023 年  
会長挨拶

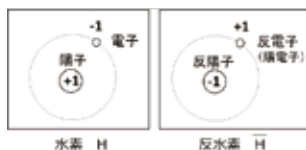


長谷川 正

皆様お変わりなくお過ごしのことと思います。

新型コロナウイルス感染症が5月8日に「5類感染症」に移行されましたが、その後、大きな再拡大は起こらないものの未だ終息していません。それでも、対面式での集会や催し物が開催されるようになり、東京学芸大学創基150周年記念式典や本会の全国代表者会議も対面で行うことができました。しかし、まだ飲食を伴う集会は自粛されています。本会は2003年11月3日に設立されましたので今年で20周年を迎えていますが、人と人との交流を基盤としています。本会を発展させていくために、多くの会員の皆様にお集まりいただき、式典と和やかに歓談できる会を開催したく、本会創立20周年記念行事は春以降に開催させていただくことにしました。是非、多くの会員の皆様にお集まりいただき、交流を深める機会としていただきたく思っています。

コロナ禍が社会に及ぼした影響は大きかったと思いますが、それでも社会全体として見ますと着実に発展してきています。9月下旬の新聞に「反重力は存在せず」との見出しの記事がありました。「反重力」とは聞き慣れない言葉ですが、50年以上前から物理学分野では反重力の存在可能性についての論議がなされてきました。物体を手から離すと地球の重力によって落下することは誰でも知っていますが、「反物質」からなる物体は手を離すと反重力が働き地球から離れ上昇すると考えられていました。「反物質」も聞きなれない言葉だと思います。+



の電荷を持つ陽子の周りを-の電荷を持つ電子が回っているのが水素ですが、電荷が-の反陽子の周りを+

同原子核研究所の大型実験装置を用いて実験で突き止めたというものでした。この研究の論文は英国の一流科学誌Natureに掲載されました。Natureへの掲載は「存在しない」ことを実験で証明した意義が如何に大きいかを意味しています。今後、ブラックホールの中心部や誕生直後の宇宙の理論的解明に貢献すると期待されています。

コロナ禍の中で実施されました新学習指導要領には、仮説を設定して検証計画を立て、観察・実験を行って仮説を検証し考察していく探求の過程が示されています。この過程は反重力の存在を検証した過程と同じです。児童生徒の作品を研究発表会や作品展等で見ますと、学校での探求学習の成果が着実に上がってきていると感じます。探求の過程で身に付けた科学的なものの見方・考え方は、児童生徒のこれからの生活の中で必ず役に立つと思います。

辟雍会活動もコロナ禍で制限されましたが、辟雍会通信の発行、オンライン会議の導入、既設団体や教室同窓会等との連携を図るバーチャルなリエゾンオフィスの設立等、新しいことを試みました。これらを導入することにより制限された条件下での辟雍会活動を少しでも活性化し得ると考えて実施したものです。コロナ禍後の新しい辟雍会活動を展開していくためには、検証可能な仮説を立てて新規事業を企画・実施するとともに、今までの事業も含めて絶えず事業を見直し、科学的・客観的に実績を分析・評価し改善していくことが大切です。HPの重要性も以前より増してきていますので、現在、HPをより見やすくより活用しやすくするための検討も進めています。

会員の皆様の変わらぬご支援ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



自宅庭で（2023年12月撮影）

## 沿革

- 2003.11.03 (平成 15) 「辟雍会 (東京学芸大学全国同窓会)」創立
- 2003.11.03 (平成 15) 荒尾禎秀会長就任
- 2003.12.07 (平成 15) 青森県支部設立
- 2005.07.02 (平成 17) 石川県支部設立
- 2005.08.22 (平成 17) 富山県支部設立
- 2005.10.01 (平成 17) 岩手県支部設立
- 2006.02.25 (平成 18) 千葉県支部設立
- 2006.04.01 (平成 18) 荒尾禎秀会長再任 (2 期目)
- 2006.10.01 (平成 18) 島根県支部設立
- 2007.06.24 (平成 19) 高知県支部設立
- 2008.04.01 (平成 20) 長谷川貞夫会長就任
- 2009.08.01 (平成 21) 北海道支部設立
- 2009.10.31 (平成 21) 東京学芸大学創立 60 周年記念シンポジウムを本学と共催
- 2010.04.01 (平成 22) 鷺山恭彦会長就任
- 2011.01.29 (平成 23) 岡山県支部設立
- 2011.02.27 (平成 23) 鳥取県支部設立
- 2011.03.26 (平成 23) 静岡県支部設立
- 2011.08.28 (平成 23) 新潟県支部設立
- 2011.10.30 (平成 23) 広島県支部設立
- 2011.11.26 (平成 23) 神奈川県支部設立
- 2012.04.01 (平成 24) 鷺山恭彦会長再任 (2 期目)
- 2012.08.17 (平成 24) 山梨県支部設立
- 2012.10.07 (平成 24) 鹿児島県支部設立
- 2013.07.27 (平成 25) 群馬県支部設立
- 2013.11.02 (平成 25) 本会を「東京学芸大学辟雍会」と改称  
本会創立 10 周年記念祝賀会開催
- 2014.03.15 (平成 26) 佐賀県支部設立
- 2014.04.01 (平成 26) 鷺山恭彦会長再任 (3 期目)
- 2014.06.15 (平成 26) 栃木県支部設立
- 2014.10.11 (平成 26) 熊本県支部設立
- 2014.11.08 (平成 26) 大分県支部設立
- 2015.05.31 (平成 27) 埼玉県支部設立
- 2016.02.20 (平成 28) 宮崎県支部設立
- 2016.04.01 (平成 28) 馬淵貞利会長就任
- 2017.09.14 (平成 29) 韓国支部設立
- 2018.04.01 (平成 30) 馬淵貞利会長再任 (2 期目)
- 2018.08.17 (平成 30) 香川県支部設立
- 2019.08.30 (令和元) 福井県支部設立
- 2020.02.22 (令和 2) 宮城県支部設立
- 2020.04.01 (令和 2) 長谷川正会長就任
- 2022.04.01 (令和 4) 長谷川正会長再任 (2 期目)
- 2023.04.01 (令和 5) 兵庫県支部設立
- 2023.12.03 (令和 5) 長野県支部設立



| 番号 | 名称           | 設立年月日              |
|----|--------------|--------------------|
| 1  | 青森県支部        | 2003.12.07 (平成 15) |
| 2  | 石川県支部        | 2005.07.02 (平成 17) |
| 3  | 富山県支部「獅子の会」  | 2005.08.22 (平成 17) |
| 4  | 岩手県支部        | 2005.10.01 (平成 17) |
| 5  | 千葉県支部        | 2006.02.25 (平成 18) |
| 6  | 島根県支部        | 2006.10.01 (平成 18) |
| 7  | 高知県支部「高知辟雍会」 | 2007.06.24 (平成 19) |
| 8  | 北海道支部        | 2009.08.01 (平成 21) |
| 9  | 岡山県支部「岡山辟雍会」 | 2011.01.29 (平成 23) |
| 10 | 鳥取県支部        | 2011.02.27 (平成 23) |
| 11 | 静岡県支部「静岡辟雍会」 | 2011.03.26 (平成 23) |
| 12 | 新潟県支部        | 2011.08.28 (平成 23) |
| 13 | 広島県支部「広島辟雍会」 | 2011.10.30 (平成 23) |
| 14 | 神奈川県支部       | 2011.11.26 (平成 23) |
| 15 | 山梨県支部        | 2012.08.17 (平成 24) |

| 番号 | 名称           | 設立年月日              |
|----|--------------|--------------------|
| 16 | 鹿児島県支部       | 2012.10.07 (平成 24) |
| 17 | 群馬県支部「群馬辟雍会」 | 2013.07.27 (平成 25) |
| 18 | 佐賀県支部        | 2014.03.15 (平成 26) |
| 19 | 栃木県支部        | 2014.06.15 (平成 26) |
| 20 | 熊本県支部        | 2014.10.11 (平成 26) |
| 21 | 大分県支部        | 2014.11.08 (平成 26) |
| 22 | 埼玉県支部        | 2015.05.31 (平成 27) |
| 23 | 宮崎県支部        | 2016.02.20 (平成 28) |
| 24 | 韓国支部「韓国辟雍会」  | 2017.09.14 (平成 29) |
| 25 | 香川県支部        | 2018.08.17 (平成 30) |
| 26 | 福井県支部        | 2019.08.30 (令和元)   |
| 27 | 宮城県支部        | 2020.02.22 (令和2)   |
| 28 | 兵庫県支部        | 2023.04.01 (令和5)   |
| 29 | 長野県支部        | 2023.12.03 (令和5)   |

## ❀ 北海道 ❀

毎年、定期的に開催してきた支部総会・懇親会は、令和2年から3年間、コロナ禍の影響を受けて休止を余儀なくされてきましたが、今春から地域や学校・職場等における対応が緩和されたことを踏まえ、4年ぶりに支部の活動を段階的に再開することができました。

令和5年8月5日（土）、第15回総会を札幌市内で開催しました。出席者は例年の半分以上でしたが、全国代表者会議内容の報告や会計監査のほか、活動休止の間も何とか発行を継続した、道内在住の会員からの近況報告を綴った支部便り「カムバックサーモン！」についても情報を共有しました。また、今年度は役員改選が行われ、会長に細川 隆氏（S 48 年卒・数学科）が選出されまし

た。総会後に行った交流会（食事は見送りました）では、令和3年に「瑞宝小綬章」を叙勲された宮崎 英彰 氏（S 43 年卒・数学科）による講話（～半世紀にわたる教員生活の思い出～）を拝聴するとともに、母校在学中の思い出話や今後の支部活動の進め方についても話題になり、有意義で楽しい集いとなりました。

3年間の活動休止を乗り越え、今後の支部の取り組みをどのように活性させていくか、事務局を中心に打ち合わせの機会を持ち、事業企画などのアイデアを出し合いながら、会員のつながりを少しでも深めることができるよう、取り組んでいきたいと思っています。

北海道支部 事務局長 中村 雅之

## ❀ 青森県 ❀

辟雍会青森県支部では、昨年度役員の改選があり、新体制での活動をスタートしました。新型コロナウイルスの規制緩和となり、会員の親交を深め、会員数を増やそうと支部の活動を進めています。

今年度より会員への連絡方法を資料の郵送からデータのメール送信に切り替えています。現在メール会員は全体の3分の1となっており、活動状況共有のデジタル化を図っています。

また、青森県支部はこれまで会員相互の繋がりで会員数を増やしてきました。会員名簿への登録にあたり、問い合わせ先や活動状況を新会員へ紹介するために、勧誘チラシを作成し、現会員から配付する体制を整えました。現在県内在住の支部会員は75名となっております。

コロナ禍のため中止としてきた支部総会・懇親会ですが、4年ぶりに15名の参加で開催することができました。4年分の想いを語る場となり、いつもよりも近況報告は熱く語る会員が多くいました。初参加の会員では憧れであった高校野

球の指導者として連合チームの指導に尽力していたり、地域おこし協力隊として学校と連携して地域の魅力発見に向けた活動を企画している話があり、大変盛り上がりしました。

今回の支部総会から卒業年度が昭和・平成・令和の会員が集う形となり、様々な世代の親交を深める場となりました。今後も同窓の輪を広げ、世代を超えた交流ができる場としていきたいと考えています。

青森県支部事務局長

今 捷覚（平成26年A類保健体育選修卒）



## ❀ 千葉県 ❀

千葉県支部は、船橋市やこの近隣の市町村に在住または勤務する卒業生の団体です。現在の会員数は36名で、県内の教職員や学校管理職の方、企業にお勤めの方、すでに退職され今でも教育に携わっている方など職種も年齢も様々になっています。毎年、市内から県内へと情報を伝達して会員の和を広げ、会員数を増やそうと考えています。

主な活動である定期総会懇親会では、会員の年齢差に関係なく、在学当時の思い出や卒業後から今日までの状況、近況報告などを交換しています。また、諸先輩からは、若手の会員の方々の悩みを受けたり、将来に対するアドバイスも行ったりしています。

大学卒業後は、それぞれが社会に独り立ちしていくわけですが、将来に対する希望など、上司に相談する前にアドバイスを受けるといったケースも出てきました。

県内には、私たち千葉県支部とは別に高校の管理職を中心とした先生方の団体もあります。千葉県支部へ入会希望の学生諸君は、下記の連絡先でお待ちしています。

千葉県支部会長

石井 康雄（元船橋市立金杉台小学校長）

自宅住所：船橋市前貝塚町 1010-18

電話番号：047-438-9380（自宅）

090-3472-3788（携帯）



この度4年ぶりの総会懇親会の開催でした。

会員数も増えてきました。

石井は、事務局長から会長になりました。

教育長や学芸大学名誉教授の参加もいただき、実りある会になりました。

教員養成講座（通称 万ゼミ）の学生さんも教師になり、第一線で活躍しています。

人から人へのつながりを大切に、

今後も支部拡大を目指していきます。

## ❀ 栃木県 ❀

辟雍会栃木県支部は、「栃木県の教育・文化・スポーツを支援する東京学芸大学同窓生の会」として、2014年6月15日に設立しました。2024年は、栃木県支部設立10周年の記念すべき年です。支部総会・懇親会は、宇都宮市内で、毎年開催します。参加者は、栃木県内の幼稚園・保育園、小学校、中学校、高等学校、大学等の教育界で活躍中の先生、事務職員、教育委員会で活躍中の方、市役所等の行政職員の方、市議会議員、刑務官、製麺屋さんに至るまで、様々です。東京学芸大学を卒業・修了して、栃木県内に住む方々が、楽しくおしゃべりして、和気あいあい、励まし合う会です。栃木県内に住む東京学芸大学卒業生は、下

記に連絡用メールアドレスをお知らせください。お待ちしております。

辟雍会栃木県支部代表（辟雍会評議委員）：

柏瀬省五

（連絡先）メールアドレス：

shogoka@ca3.so-net.net.jp



長谷川正辟雍会会長（前中央）を囲んでの辟雍会栃木県支部総会

## ❀ 神奈川県 ❀

辟雍会神奈川県支部は平成 23 年 11 月 26 日に「支部総会」にて東京学芸大学全国同窓会「辟雍会神奈川県支部」を設立し、令和 3 年に 10 周年を迎えておりました。本年は 12 年目になりますが、感染症の影響などにより延期していた記念行事に、本部幹事長の松村茂治先生をお迎えして、11 月 23 日に 10 周年記念総会・記念講演会（講師は支部顧問の大竹美登利先生：ゲームで考える生涯を見通した生活経済の管理や計画）を実施しました。本部からの辟雍会通信に併せて支部便りを 17 号まで発刊し、インターネットにて会員に配信しています。さらに東京学芸大学創基 150 周年記念イベント当日に、学生や卒業生を対象に教職相談ブースを芸術館で開設しました。神奈川県に在籍在職している会員が、相互の親睦を図り、

広く教育及び文化の振興・発展に寄与することを目的として、支部独自の FACEBOOK や SNS を活用した情報の発信と連絡を密に推進していきたいと考えています。



会長挨拶

## ❀ 石川県 ❀

コロナ禍の収束に伴い、我が石川県にも活気が戻ってきました。6 月の百万石まつりの通常開催に続き、10 月 29 日には 9 回目となった金沢マラソンの沿道応援も復活し、県内外からの参加者で町は賑わいました。今年度の 3 月には、いよいよ延伸された北陸新幹線もスタートとなり、小松や加賀温泉にもたくさんの方が訪れるのではないのでしょうか。

東京学芸大学石川県人会（辟雍会石川県支部）もこの流れに乗り、この夏、待ちに待った懇親会を開催することができました。実に 5 年ぶりということで、懐かしさでいっぱいの面々が集い、フレッシュなメンバーの参加もあって、話が尽きないほどの盛り上がりでした。恒例の参加者スピーチでは、それぞれの個性あふれる近況報告がなされ、笑顔の絶えない会となりました。40 年ぶりに学芸大学を訪問した時の様子を写真で紹介するコーナーもあり、「ここは見違えるようになった

ね」「ここは変わってないなあ」と青年時代に戻ったようなシーンもありました。

ただ、一つだけ残念だったのは、学芸大学在学中にあの栗山英樹氏と野球部でバッテリーを組んでおられた方が急遽欠席となったことでした。WBC の日本優勝で盛り上がった年でもあり、学生時代の栗山氏とのエピソードなどをたくさん聞きたいと思っていたのですが、それは次回の楽しみとします。次回は、新会長のもと、さらに楽しく盛り上がる会を企画いたしますので、より多くの県人会の皆様のご参加をお待ちしています。

石川県支部長 新村 裕二



2023 年 8 月 東京学芸大学石川県人会（辟雍会石川県支部）懇親会にて



## ❀ 兵庫県 ❀

石川県能登半島の大震災に対して、被害にあわれた方々に心よりお祈り申し上げます。阪神淡路大震災時、学芸大の同窓の友から「生きてるか？」との電話に涙を流したことを覚えています。

さて、「辟雍会兵庫県支部設立総会」が、2023年3月12日（日）にZoomにて開催することができました。7名が参加しました。当日都合があった方や、Zoomに接続できなかった方が4名で、合計11名での総会となりました。そして、2023年11月3日に東京学芸大学で開催されました辟雍会全国代表者会議で「辟雍会兵庫県支部設立」をご承認いただきました。心より感謝申し上げます。これからも、ご支援、ご協力をよろしくお願い

いたします。今後、会員（会費納入者）の34名を含め組織拡大のために、連絡先が交換できることが、課題となっています。なお、兵庫県支部は、近畿地方（京都を除く）の卒業生の連絡先にもなっています。

2024年度から神戸親和大学の学長に、現在、東京学芸大学副学長「松田恵二」さんが選出されました。兵庫県支部として心より歓迎申し上げます。大学で学び合った友は、また、「いつか」会えることがあります。その「いつか」が「明日」になることを願っています。

兵庫県支部長 小坂 明



## ❀ 岡山県 ❀

令和5年2月4日（土）に第11回東京学芸大学岡山辟雍会を開催しました。コロナが流行し、2年間開催することができませんでした。3年ぶりの開催です。

久しぶりの開催でしたが、13名の参加で懐かしく楽しいひとときを過ごすことができました。今回4名の方に初めて参加していただきました。今年は、20名以上の参加を目指して企画していきたいと思っています。今年の開催は、令和6年2月3日（土）です。また新たな出会いがあることを期待しています。

また、野球部のOB会で昨年12月に学芸大学を訪れた際、正門横の20周年記念飯島同窓会館に植樹されている岡山の「醍醐桜」が大きく成長している姿を見ることができ、大変うれしく思いました。この「醍醐桜」は、平成29年に学芸大から植樹の依頼があり、送らせていただいたものです。同時に送った「岡山県木の松」は時間の都合で確認できませんでしたが、大きく成長してい

ることと思います。

このようなご時世で、皆様なかなかお忙しく、小中高大のそれぞれの行事もあり、日をあわせるのが難しい状況です。皆様のご意見をお聞きし、できるだけ大勢の方が参加していただける時期に会を開催できるように、尽力していきたいと思っています。

事務局長 宰相 裕一

《代表者》

〒710-0252 倉敷市玉島爪崎 746-12

宰相裕一（さいしょう ひろかず）

携帯 090-3746-8807



## ❀ 鳥 取 県 ❀

鳥取県支部は、平成元年に「東京学芸大学鳥取県同窓会」として産声を上げました。そして、平成23年、全国で10番目に辟雍会に加盟し鳥取県支部となりました。現在、会員数は約130名です。懇親を目的としており、1年に1度皆で集まり、昔を懐かしんで会員相互の交流を行っています。

新型コロナウイルスで開催できない期間がありましたが、実に4年ぶりに31回目の総会・懇親会を令和6年2月3日（土）に開催しました。1961年度入学の先輩から2017年度入学の後輩まで42名が集い、盛会に終わることができました。

総会では、ポストコロナを考え、若手への役員交代をしました。新会長小椋博幸さんを中心に支部の更なる発展を目指しています。

また、懇親会では、一人1分という短い時間で

はありましたが、自己紹介と近況報告をしました。笑顔がたくさんあふれる会になったと思います。

今後も支部の充実を図るために、冬の開催に加えて、夏にも集まろうと考えています。在校生のみなさん、卒業生のみなさん、ぜひ鳥取支部にご参加してください。お待ちしております。詳細は、QRコードから支部のホームページでご確認ください。

支部長：小椋博幸（1982年卒A類社会科）

事務局長：石名勝実（1990年卒D類保健体育科）



## ❀ 高 知 県 ❀

高知県内には60名程（平成30年3月時点）の学芸大出身者が在住し、年に1回程度懇親会を開催し、親睦を深めていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響のため、開催することができずありませんでした。

ようやく、ほぼコロナ前の日常生活に戻ってきましたので、何かしらの集まる機会（高知県内には20~30歳代の学芸大出身者も多くいるようです）を持ちたいと思っています。

高知県に在住されている方で、この「支部だより」のスペースを読まれた方は、支部長の宮地が事務局の中山のメールアドレスまたは携帯電話まで連絡をいただきたいです。また、高知県内の学芸大卒業生所在の情報がある場合にも連絡をください。懇親会の案内をさせていただきますのでよろしくお願いします。和気あいあいとした和やかな会です。

ちなみに平成30年3月28日の参加者は、1974年卒D類保体科 宮地彌典（高知支部長）、

1975年卒D類書道科 大西正子、1977年卒D類保体科 柚村 誠（副支部長）、1977年卒D類美術科 西 緑、1985年卒D類数学科 黒瀬忠行、1988年A類保体科 宇賀孝篤（副支部長）、1988年卒A類理科 若江卓恭、1989年卒D類保体科 西内一人、1992年卒N類生涯スポーツ科 池添伊佐子、1994年卒A類数学科 田所良夫、1990年卒B類数学科 松山 幸、1990年卒D類数学科 中山泰志の12名でした。

支部長 宮地彌典（1973年度卒 D類保体科）

TEL:090-5911-5088

メールアドレス:m-hirosuke@miyajigakuen.jp

副支部長 柚村 誠（1977年度卒 D類保体科）

宇賀孝篤（1988年度卒 A類保体科）

事務局 中山泰志（1990年度卒 D類数学科）

TEL:090-4976-9220

メールアドレス:k\_kobun4769@docomo.ne.jp

## ❀ 大 分 県 ❀

**大分県支部は 10 年の節目を迎え次のステップへ前進します。～「おんせん県おおいた」のほっとするつながりを求めて～**

早いもので大分辟雍会が平成 26 年に設立されてから今年で 10 年の記念すべき年を迎えることとなりました。5 名の会員からスタートして現在 48 名の方々が連絡を取り合える登録会員となりました。昨年度までの 3 年間は、コロナ禍の中で対面開催ができず、紙上開催となりましたが、今年は、1 月 27 日に大分市のアートホテル大分におきまして第 10 回総会を開催したところ、22 名の同窓生が集い、久しぶりの再会の思いや大学時代の思い出を語り合いながら、時間を忘れるほどの楽しい交流ができました。辟雍会事務局からご来賓として、丹伊田副会長様と荒川事業・情報部長様をお迎えし、辟雍会の取組についてのお話と合わせ、本支部の活動へのねぎらいのお言葉をいただきました。また、参加が叶わなかった長谷川

会長からいただいたおいしい日本酒も会話に花を添えていただきました。懇親会の中で、お互いの近況報告の交流はもちろんのこと次回参加の約束もし合いながら親睦を深めることができました。本年度参加された会員さん方の中には、令和 2 年に卒業された方を含めてたくさんの若い方々の方も参加され、年代を超えた懐かしい大学時代のエピソードから郷土の話題へと花開きました。短い時間ではありましたが、会員の皆さんと楽しいひと時を過ごすことができました。他支部の皆様も、是非「田舎暮らし日本一のおおいた、おんせん県おおいた」の魅力を発見してみませんか。どうか、九州への旅の途中にお立ち寄りください。



## ❀ 宮 崎 県 ❀

令和 5 年 9 月 30 日に小林市でありました栗山監督の講演会に会長・副会長・会員で参加しました。ワールド・ベースボール・クラシックで日本代表を優勝に導いた際のエピソードをお聞きして、刺激を受けたところです。

現在、宮崎県内外で多くの卒業生が活躍しております。同窓会の活性化を図り、卒業生としての想いを共有し、絆を深めるため、久しぶりとなる懇親会を計画しているところです。また事務局内に支部制や広報部などの新設も検討しております。皆様のニーズを把握し、期待に応えられるよう SNS での連絡体制に加え、Web ページにて情

報を発信できるよう検討してまいります。300 名程の名簿ができております。異動等にもなって、更新や追加を進めてまいります。皆様からの連絡をお待ちしております。

宮崎県支部事務局長 村中田 博

(R6. 3 月までの勤務先は綾町教育委員会です)



宮崎県支部同窓会：OB が経営している HIKE にて



①北海道支部 連絡先 中村 雅之

E-mail : m-nakamura1125@outlook.jp  
カムバック・サーモン！北の大地（北海道）は、皆さんの凱旋を待っています。

②青森県支部 連絡先 里村 輝

TEL : 090-8781-7482 E-mail : satomura-akira@m05.asn.ed.jp  
学芸大青森キャンパスでは、同窓生が楽しく友好を深めています。夢の続きを青森で。まずは連絡ください。

③岩手県支部 連絡先 中村 和平

TEL 090-8928-9837 E-mail : nakazohira8@gmail.com  
世界で活躍するアスリートを生み育てた故郷岩手で、一緒に可能性豊かな児童生徒の夢実現の応援をしましょう。

④宮城県支部 連絡先 高橋 晃

TEL : 0224-25-2158 E-mail : akira30213@yahoo.co.jp  
卒業・修了おめでとうございます。  
宮城の教育のためにはやくこっちゃん来てがんばってけれ！！

⑤栃木県支部 連絡先 柏瀬 省五（かしわせ しょうご）

TEL : 0284-62-6229 E-mail : shogoka@ca3.so-net.ne.jp  
故郷へのUターン、心から歓迎。故郷の教育、文化、スポーツ、みんなで楽しみながら、発展させよう。待ってるからね！

⑥群馬県支部 連絡先 須永 智

TEL 090-7849-1059 E-mail : sunagashishi@gmail.com  
令和5年の夏を目標に総会・懇親会開催の準備を進めています。名簿作成への協力、お知り合いへの連絡を是非、お願いいたします。

⑦埼玉県支部 連絡先 阿部 博之

TEL : 048-862-6857 E-mail : h-abe618@xa2.so-net.ne.jp  
「こころ、咲いたまま。」こころを通じ合い、ネットワークを広げていきましょう！気軽に連絡してください。

⑧千葉県支部 連絡先 石井 康雄

TEL : 047-438-9380 E-mail : ishaso.fuki@gmail.com  
千葉県では、君達の先輩が大勢がんばっています。そこで、皆さんの力、ネットワークが必要です。加入をお待ちしています。

⑨神奈川県支部 連絡先 原 英喜

TEL : 090-9800-5831 E-mail : oyo5.hhara@gmail.com  
「生きる学び続けた日々、これからは社会に通ずる人として歩む道になります。「一日一生」を心して優しく優しく遅く遅くね。」

⑩山梨県支部 連絡先 鮎澤 譲

TEL : 080-1217-1364 E-mail : yayuzawa@outlook.jp  
会員の輪をさらに広げ、楽しく集いたいと思っています。気軽に連絡くださいね！

⑪新潟県支部 連絡先 玉木 浩

TEL : 090-9741-7520 E-mail : h01tamaki@yahoo.co.jp  
新潟は、おめさん方を待ってる。～越後に輝く獅子の星座のもと、集い、語り、絆を深めよう～

⑫富山県支部「獅子の会」 連絡先 草野 剛

TEL : 090-4681-1079 E-mail : kusanots0521@docomo.ne.jp  
富山では280人以上の方ががんばってるよ。  
富山に戻るときには連絡しられ。まっとうちゃ。

⑬石川県支部 連絡先 新村 裕二

TEL : 076-264-5467 E-mail : yujis@staff.kanazawa-u.ac.jp  
ふるさととは、あなたの帰りを待ってるよ。新幹線かがやきで帰ってきまし！

⑭福井県支部 連絡先 小林弥寿夫

TEL : 090-8704-7562 E-mail : y-koba2020@lime.plala.or.jp  
かたいんけのお！うらら、あんたが福井へ帰ってくるの待ってるんやぞあ 早よお～帰ってきねの！

⑮静岡県支部 連絡先 大石 茂生

TEL : 090-2617-7616 E-mail : shigeo-yasuko02@za.tnc.ne.jp  
卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。静岡県で教職に就かれるみなさん、私たちは心より楽しみにお待ちしております。現役の方々、OB・OG、一体となって子どもたちのためにがんばりましょう。

⑯兵庫県支部 連絡先 里 昭憲

TEL : 090-5654-3024 E-mail : kurosan19@gmail.com  
卒業おめでとう。広い近畿で、卒業生がいっぱいがんばってますよ。みんな熱い心でがんばってます。手をつないでがんばっていきましょう。

⑰鳥取県支部 連絡先 石名 勝実

TEL : 090-8605-8455 E-mail : gakuget.tottori31@gmail.com  
県人会発足から34年。鬼太郎、コナン、ジローが、あなたの帰りを待っています。まずはご連絡ください。

⑱島根県支部 連絡先 玉林 尚之

TEL : 090-4579-0034 E-mail : tamarin511@sky.megaegg.ne.jp  
卒業生はちょんばでも、まげにがんばっちゃーよ。あったかふるさと島根は若い力をまっちょーけん。連絡してごいてね。まめで帰ってきんさいや！

⑲岡山県支部 連絡先 宰相 裕一（さいしょう ひろかず）

TEL : 090-3746-8807 E-mail : uzusai@gmail.com  
晴れの国岡山で待ってるけーなー！ 帰ってきたら連絡してーよー。美味しい肉や魚や野菜や果物をみーんなで、食べーやー。楽しみにしてるで。

⑳広島県支部 連絡先 田中 信也

TEL : 090-4806-7177 E-mail : s\_tanaka@hiroshimaymca.org  
広島に戻ったときはぜひ連絡を。  
個性豊かな先輩たちがお待ちしております。

㉑香川県支部 連絡先 原 彪（はら たけし）

TEL : 090-8699-3434 E-mail : st-hara1128@ma.pikara.ne.jp  
大学4年間で身に着けた君たちの力をぜひ故郷で発揮して、みんなで住みやすい香川県を築いていこう。多くの先輩たちもいて支部の会をつくっています。卒業して帰郷したら必ず私に電話してください。待ってるけん。

㉒高知県支部 連絡先 中山 泰志

TEL : 090-4976-9220 E-mail : k\_kobun4769@docomo.ne.jp  
高知県出身者はもちろんのこと、高知県で働いてみたい方、是非連絡をください。みなさんを学大卒業生一同お待ちしております。

㉓佐賀県支部 連絡先 小松原 修

TEL : 090-1089-8832 E-mail : samukomatsubara@yahoo.co.jp  
教育に携わる卒業生とマスコミに携わる卒業生でがばい調和がとれています。バルーンに乗って同窓会してます！

㉔熊本県支部 連絡先 藤田 まり子

TEL : 090-2503-9982 E-mail : fujimari5512@gmail.com  
阿蘇に負けんパワーと、天草の海のごて綺麗な心で、熊本の学校を元気にするためにがんばるとるばい！

㉕大分県支部 連絡先 瀬口 卓士

TEL : 090-9070-2962 E-mail : seguchi-takuji@oen.ed.jp  
「田舎暮らし日本一」を目指して、しらしけん大分を元気にしよるで。わーけえ先輩もだーね増えて、みんなで40名こえたんで。心も体もあつたまる温泉県にもどったら、いつでん連絡してな。待つちよるけん。

㉖宮崎県支部 連絡先 村中田 博

E-mail : hm110629@gmail.com  
皆さんの活躍が楽しみじゃー 300名程の名簿ができちよるよー日本のひなた『宮崎』で待ちっちょーどー！

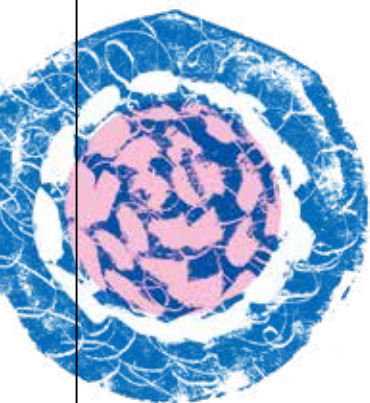
㉗鹿児島県支部 連絡先 雲井 未歆

TEL : 099-285-7766  
鹿児島では、桜島が毎日噴煙を上げています。その力強い始動は鹿児島島の全ての同窓に届いているはず。支部の和も同じように広がってほしいと願っています。

㉘韓国支部 連絡先 金範洙（キム・ノス）

TEL : 090-6106-0493 E-mail : bskim77jp@yahoo.co.jp  
ポストコロナ時代を迎え、韓国文化・韓国語・教育研修を中心に様々な教育活動を予定しています。韓国辟雍のメンバーは教育関係者が中心となっています。韓国地域との国際交流を考える際はぜひご相談ください。

これまでに設立された辟雍会の道県支部では、皆さんからの連絡を待っています。



## 学芸大で培った企て力



(株) フジテレビジョン  
美術制作センター デザイナー

杉山 宏樹

### ■そもそもテレビ局のデザイナーって何！？

現在、私はフジテレビでデザイナーとして日々各所を忙しく走り回る日々を送っています。お台場の球体があるテレビ局です。現職の先生方や平成生まれの方にとっては、修学旅行の際に訪れる場所としての印象が強いのではないのでしょうか。モダニズムの巨匠・丹下健三氏による最後の大型プロジェクトで作られた個性的な建物で日々さまざまなコンテンツが生み出され、世に発信されています。

そもそもテレビ局のデザイナーって具体的にどんなことをしているのか想像ができないのではないのでしょうか。テロップやロゴといったCGなのか、グラフィックデザインなのか、空間・セットのデザインなのか…。答えは上記全部で、セットデザインをメインに番組のイメージをデザインする美術監督のような仕事です。

私は入社後バラエティ番組を中心に4年間はデザイナーの助手として活動し、その後はデザイナーとしてvs嵐やvs魂グラデーション、正月の爆笑ヒットパレード、ジャンクスポーツでは美術助手としてマスカレードホテルやマスカレードナイト、スポーツではFIFAワールドカップ2022カタールや世界柔道など幅広いジャンルを担当してきました。様々なジャンル、方向性の異なるテーマのコンテンツに合わせてオーダーメイドで

世界観を作り出していくことが仕事であり、私の楽しみになっています。

### ■どうして学芸大から？

『どうして学芸大から？』という質問は耳にタコができるほど聞かれてきました。就活をしていた時、そして現在も出身大学を聞かれるとそのような質問をされることが多いですが、そこには私なりの経験に基づいた信念と理由があり、その芯は変わることなく今も私が生きていく上での軸となっています。

大学院1年の途中までは自分は美術の先生になるんだと考えておりました。私が所属していた研究室は、ゼミの後に夕飯がてら研究室の丸テーブルを囲い深く語り合うような会がたびたび開催されていました。教授や学部生から院生までが集まり、料理を囲みながらデザイン論や最近の話題に関する自分の意見が交差する刺激的な時間でした。その中で教授からしばしば出ていたキーワード的質問がありました。そのような質問や会話を繰り返す中で、自分の思考の源流や行動の理由に関してもしっかりと考えるようになっていたのです。

就職活動・採用シーズンになり、卒業後の進路を決めるタイミングになりました。大学院1年途中までは



■フジテレビうち応援プロジェクト「デジタル紙芝居」



■番組ロゴグラフィックデザイン



■FIFA ワールドカップカタール2022

■The Gaming Days

■ここにタイトルを入力



■直撃！シンソウ坂上

■直撃！シンソウ坂上（番組スタート時）



■ジャンクSPORTS

■ジャンクSPORTS（奥の奥）

■BACK TO SCHOOL！

■カイゾー人間増殖中

漠然と先生になろうかなと考えていましたが、本当にそうなのかなともう一度深く考えるタイミングでした。

私は自分が企画したものやデザインしたもので他の人をワクワクさせたり喜ばせたりすることが大好きでした。教育実習で授業作りをした際には、どのようなアクションをすれば子供たちが能動的な姿勢になって授業に参加してくれるか、授業後に自分から関連することを調べたりアクションを起こすようなキッカケやトリガーを仕掛け、「企てる」ことが私の生きがいなのだ気付いたのです。

「企て力」と学んできた「デザイン」の両軸を生かしながら、老若男女、世代関係なくワクワクさせたり喜ばせたりする仕掛け作りができるこの仕事をしようと考えて、今の仕事を選んだというわけです。

#### ■「企て力」のこれから

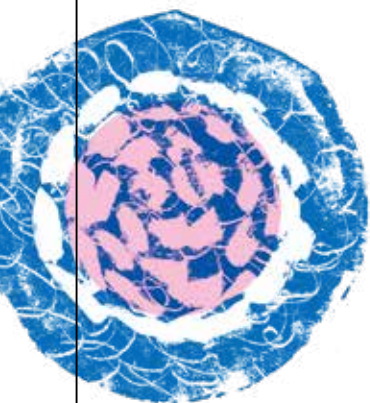
現在インターネットの普及、メディアやプラットフォームの多様化により、テレビはオールドメディアという扱いになり、かつてほどの絶対的な輝きや影響力はなくなりつつあります。とはいえ、ネット放送や

テレビではない企画に関してもスタッフはテレビで育ち、テレビでクリエイティブワークをされている人が大半なのです。まさにそれぞれが持つ「企て力」で多くのコンテンツは生み出されているわけです。プラットフォームが多様化したということで人間の持つ「企て力」が軸となることは変わらないと強く実感しています。

変化の多い現代社会ではありますが、学芸で培った「企て力」を持って毎日をワクワクする心を忘れずに過ごしていきたいと思います。

企業で、地域でこの不安定な時代を生き抜くためには「まずは願うことから始まる」と伝えています。

2015（平 27）年 3 月 修了 大学院修士課程美術科教育



# 大きな変化は成長のチャンス

～一人一台端末と生成AIがもたらした変化～



山形県高畠町立和田小学校 教諭

近野 洋平

## ■ はじめての教育実習先の記憶

私は現在、山形県の高畠町で公立小学校の担任として勤務しています。2018年にA類理科選修を卒業し、都内の中学・高等学校で講師としての経験を積んだ後、地元に戻り、現場に立つことになりました。

原稿を書くにあたり、ふと思い出したのが初めての教育実習です。実習先は東京学芸大学附属世田谷小学校。私がお邪魔した5年生の教室では一人ひとりに専用のタブレットがあり、授業中当たり前のように子ども達が使用していました。子ども達の学習に非常に有効であると感じたと同時に「この環境がすべての公立小学校で実現するのはきっと難しいのだろう」と、漠然と感じていたことを覚えています。その年からたった3年で一人一台端末環境が実現するとは思っていませんでした。

## ■ 「一人一台端末」環境の実現

地元で初めて担任を持った時のことは今でも鮮明に思い出します。そのクラスとのお別れを目前に控えた

3月、新型コロナウイルスの影響により一斉休校となりました。何が正解なのかも分からないまま、一軒一軒に電話をかけて子ども達の様子を確認し、大量に印刷したプリントを配布したことを覚えています。そしてGIGAスクール構想が前倒しされ、気づけば一人一台端末環境が実現していました。

コロナ禍による不安もある中でしたが、突然実現した一人一台端末をどう活用しようか、実はとてもワクワクしていました。というのも、先にも述べた通り公立小学校で一人一台端末環境が実現するとは考えていなかったからです。その環境は、一部の大学附属小学校や、私立小学校の特権だと思っていました。

児童一人一人の手に端末があるという状況は、非常にインパクトのある学習環境の変化です。今まで紙に手書きしていたものがタイピングになる、お互いに見せ合っていたものもクラウド上で相互参照できる、先生が用意していたような資料を自分で検索できるようになる…。自分のこれまでの授業観を大きく変えざるを得ないと感じました。



県内の教育センターで「生成AIを活用した授業」について講演を行いました。  
多くの先生方と活用方法を考えることができ、充実した時間を過ごすことができました。

この変化に対応するため高島町では「GIGA スクール推進室」が立ち上げられ、私もこのチームの一員として端末の活用方法を模索することになりました。導入初期は、45分授業のどのタイミングで、どのような方法でICTを取り入れるかを毎時間の授業で考えていました。正直言って持続可能なやり方ではありませんでした。仮に授業の準備時間が確保できたとしても、活用方法に連続性がなく、子ども達自身の端末活用が進みません。指導者の私に毎時間「使わせられている」からです。こういった姿勢では端末活用の主語が「教員」になってしまいます。授業における端末活用の主語は「子ども」です。子ども達自身が端末のメリット・デメリットを理解した上で、使用するかどうかの判断も含めて、端末を使いこなしていく必要があります。

そのためには指導者がその都度「使いなさい」という状況ではなく、子ども達がいつでも「使いたい時に使う」という状況を作り出す必要があります。授業進度を子ども達に任せる場面を増やしたり、端末を活用したアウトプットの機会を多く確保したりするなど、授業中子ども達が自己決定する場面を多く設定していきましました。その結果、自ずと授業の形も変化していきましました。

これまでも時代の変化や社会環境の変化に伴って、教育の形は変化してきました。その延長上にいる私たちも、学び変化し続けていく必要があるのだと今まさに実感しているところです。

#### ■「生成 AI」登場による衝撃

活用の実績も軌道に乗り始め、町内の研修で講師を務めるなど一人一台端末の有効な活用を広げる段階に進んできたと感じてきたタイミングで、また衝撃的なニュースが飛び込んできました。「生成 AI」に関するものです。

たまたま見ていたネットニュースに「ChatGPT、史上最速でアクティブユーザー数 1 億人に到達か」という見出しがありました。興味が湧いたので実際に ChatGPT を触ってみたところ、衝撃を受けました。間違いなく社会に大きな影響を与える技術であることを確信しました。そして現在、生成 AI をめぐって社会が動き出しています。もはや「生成 AI を使うか？使わないか？」という段階ではなく、「生成 AI を使わざるを得ない時代において、その技術をどう使っていくか？」という段階に入っています。教育現場も例外ではないはずです。

一人一台端末が配備された時と同様、生成 AI も学習環境に大きな影響を与えると感じました。「これを使って授業をしないわけにはいかない」と思い、早速 1 本授業を考えました。2023 年の 3 月、終業式直前の道徳



今やタブレットPCは子ども達の文具の一つ。この子は調査内容をノートにまとめ、それをプレゼンテーションしようとしています。

の授業でした。縁あって NHK の『クローズアップ現代』で授業の様子を放映していただき、その後しばらく反響がありました。

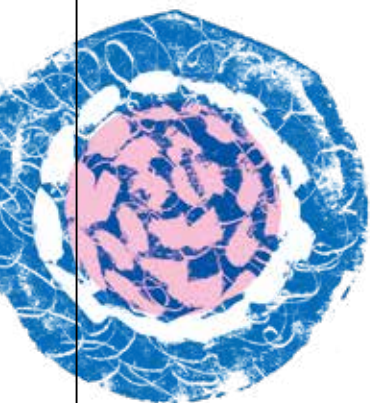
そんな反響の一つに、山形県の教育センターにて生成 AI の教育現場での活用について講演させていただくという機会がありました。多くの指導主事の先生方の前で生成 AI についてお話をしてきたのですが、どんな反応が返ってくるか正直怖かったことを覚えています。しかし、多くの先生方が「他の教科ではこんな風に使えるのではないか」「校務ではこんな使い方もできそうだ」と講話の内容を肯定的に捉えてくださいました。新しい技術を子ども達の未来のためにどう活用していくか、こうして前向きに議論していく先生方がたくさんいるという事実が大変頼もしく思えましたし、自分も改めて頑張ろうと思えた時間になりました。

#### ■環境の変化を恐れない

大きな変化があった時、仮説を立てて「まずは行動に移していく」ことを大切にしています。この「まずは行動に移していく」という姿勢は大学時代、主に研究室時代に身についたものだと思います。理科教育学の研究室で中西史先生にお世話になっていましたが、何か相談しに行ったり、ディスカッションを行ったりした後にはいつも「まずはやってみよう！」と背中を押されました。そして必ず次につながるフィードバックをいただいたことで、自信をもって次の行動に移すことができたことを思い出します。

一人一台端末による学習環境の変化、生成 AI の登場による社会環境の変化、たった 3 年の間に大きな変化を 2 つ経験する中で、自身の教育実践にも大きな変化と成長がありました。環境の変化を恐れて行動しないのではなく、まずは考え行動し、より良いものになるようにしていく。この姿勢が私の成長を支えてくれていると信じていますし、今後も大切にしていきたいと思っています。

2018（平成 30 年）年卒業 A 類理科選修



## 「自然館」つながり



洗足学園小学校 教頭

赤尾 綾子

私は大学、大学院の6年間を学芸大学で過ごし、その後20数年間、洗足学園小学校に勤務しています。勤務校は専科制のため長く高学年の担任をしながら理科を教えていましたが、2016年度からは教頭として仕事をしております。現在はICTの活用、新しい学びや学校のあり方といった児童の学びに関係する仕事をするだけでなく、教員の働き方や働く環境づくりにも注力しています。

教員をしていると、学芸大出身の方と出会うことはそれほど特別なことではなく、意識することもない、ごく日常のことになっています。

しかし、学芸大は学芸大でも「自然館出身」の方と知り合うのは少し違います。「研究室はどこでした?」、「〇〇先生で存じですか?」から始まり、地下室の話、自然館の中庭の話など、自然と笑顔になるテーマで、年代を超えて懐かしい自然館話で盛り上がります。

私は教員という仕事をする中で、たくさんの「自然

館仲間」に出会い、そこから生まれたつながりに助けていただいたり、新たな視点をいただいたりすることが何度もありました。

### ■教育へのICT活用

本校では、2016年度からiPadの活用を進めるプロジェクトを始め、2019年にはApple Distinguished Schoolに認定されています。私たちが目指したのは「iPadを文房具のように使う」ことです。現在ではiPadがある生活が日常になり、指導案からはICTという言葉が消えるほど、あるのが当たり前の道具になっています。

数年前、ICT活用の教育効果についてのエビデンスをとるために、大学の先生を紹介していただいたことがありました。初めましてと挨拶をしようと思ったら、なんと目の間に現れたのがA理で1学年上のK先輩でした。まさかこんな形で再開するとはと驚きました。それ以来、本校のICT活用について何度もご指導をいただいています。

### ■理科

「私、赤尾先生と同じ研究室出身なんです。」と声をかけてくださったY先生。年代は違いますが、私立小で理科の教員をされていて、そこからのつながりで、私学の理科教員として多くのことを教えていただいています。今では本校の別の理科教員ともつながっていただき、理科教育について考える機会を頂いています。

### ■教頭部会

私立小学校の教頭が集まる「教頭部会」があります。そこでは教頭ならではの課題を共有し情報を交換し、共に学んでいます。教頭部会に属するようになって、一番感じたことは、トラブル対応などネガティブな話題が多いということです。それだけ現代の教育が抱えている課題が大きいということを感じさせられます。

この会で話をしていた時にも、話の流れでそこにいたメンバーが学芸大出身であることがわかりました。



Apple Distinguished School 認定書 (2022年に二度目の認定をいただきました)



Base C（図書室を改装して作った新しい施設です。児童の「好奇心」にこたえ、学びが始まる場所として作りました。）

まさかと思って尋ねてみるとそこにいた3人ともが自然館出身。それだけで、ぐっと距離が近くなった感じがして、その後一緒にイベントを企画しようという話にまで発展しました。全国には学芸大学出身のポジティブな教頭先生がたくさんいるはずです。日本の未来のためにつながって、新しい教育を創造できればと思っています。

#### ■デジタル・シティズンシップ教育

本校ではデジタル・シティズンシップ教育にも力を入れています。先日、A理で同じクラスだったEさんと共にデジタル・シティズンシップの研究会で発表する機会がありました。まさか、同じ研究会で一緒に登壇する日が来るとは、学生の頃には全く想像もつきませんでした。そして、お互いに辿った道は違っても、辿り着いた先が似ていたことにも驚きました。今後も切磋琢磨してきたいと思っています。

#### ■最後に

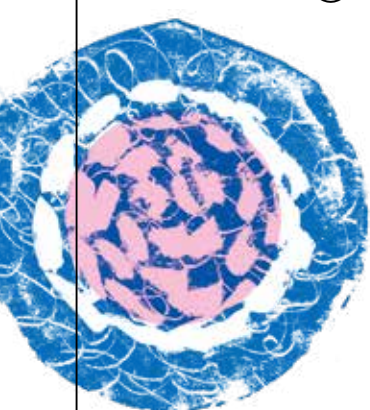
今、日本の教育が転換期にあることは間違いありません。私はこの転換期に教育に携われていることが嬉しく、変化していくことを楽しながら日々の業務に取り組んでいます。そう思えるのは、学芸大で学んだ6年間と、大勢の学芸大仲間、「自然観仲間」の存在があるからです。これからも学芸大つながりを大切に邁進したいと思っています。

1999 年卒業 A 類理科

2001 年修了 大学院修士課程理科教育



校舎と教室（各普通教室に3台ずつのプロジェクターがあり、授業では黒板を使っていません。）



## 学校教員から民間企業へ、 私のセカンドキャリア



(株) ブレンディングジャパン社長補佐、  
アオバジャパン・インターナショナルスクール渉外 /  
国際教育普及事業担当ディレクター  
(前文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム事務局長)

### 小澤 大心

「どうして学校の先生を辞めてしまったの?」「教壇が恋しくなるでしょう?」「今は民間なの? でも、本音ではいつかは学校に戻りたいでしょ?」元同僚たちと話をすると、よくこうした言葉をかけられます。しかし、私は今の人生を謳歌しているところであり、教壇を離れていることに未練はありません。

私が教員を目指すきっかけは、高校生の時代にさかのぼります。将来のキャリアについてボーっと考えながら過ごしていました。当時は、警察官、弁護士、国家公務員、メディア関係といった様々な職業について、あれこれ思いを巡らせていました。色々な職業に関心がある一方で、選べる仕事はひとつであり、どの道を選択するかを悩ましく感じていたことを今になっても思い出します。

そんな中で、自分の進路の方向性を決定づける出来事が起こりました。私は友達と一緒に定期考査に向けて勉強していて、私はその友達の家庭教師役が多かったのです。人に教えることで自分の理解も深まり、こ

うした友人の学習サポートは苦になりませんでした。今思うと「世話好き」が自分の性に合っているのでしょう。そんな時に、友達から次のような言葉をかけられました。「お前、教え方上手だね、よく理解できたよ。将来は先生になったらどう? 向いていると思うよ」

将来の進むべき進路に悩んでいた自分にとって、「教員かあ。考えたこともなかったが、他の職業よりどのように魅力的なのか?」とその時を境に学校教員というキャリアを自問自答するようになりました。そして、自分なりに納得のいく結論に至ったのです。「人生において、選択できる職業は1つ、または転職しても進める道は限られる。じゃあ、教員はどうか? 自分の教え子が私の進みたかった様々な進路を選択してくれるかもしれない。私がやりたかったことは、子どもたちが将来に繋いでいってくれるのかな。」そこから、教員への道に迷いはありませんでした。

人に教えることは好きであったものの、残念ながら自身の成績は優れておりませんでした。案の定、浪人



島根県・倉吉東高等学校での国際バカロレア教育に関する講演



国際バカロレア機構ヘイノネン事務局長の来日対応業務（文部科学省IB 教育推進コンソーシアム事務局長として）

生活を1年経験したのですが、なんとか東京学芸大学に入学することができました。K類日本語教育課程（当時）に進学して、専科を学びながら、教職課程では中高の国語と英語の免許を取得しました。国語と英語の免許をもっていることは周囲から珍しがられますが、互いに言語教育の領域科目であり親和性はあると思っています。在学中には、少しでも英語を話せるようになりたいと思い、1年間アメリカのハワイ大学に交換留学をしました。初めての異国での生活や文化や多様な価値観を持つ人々との交流は、まさに自身が成長できる良い機会となりました。

学部を卒業後、新しく開設された教職大学院に進み、その時の実習先である大学附属校で国際バカロレア教育に出会いました。それは、国際標準の学習カリキュラムに関心を持つきっかけとなりました。また将来は地元の群馬県に戻って教員になりたいと考えていた時に、ちょうど国際バカロレアの導入を目指す私立学校の情報を得ました。これも何かの縁と考えて、採用試験を受け、晴れて学校教員になったのです。そこから10年ほどの学校教員生活が始まりました。

では、そんな私が今なぜ教壇を離れているのかという話をいたします。教員になると、子どもたちに将来のキャリアや進路について相談に乗る機会が多くあります。しかしながら、私は学校教員以外の仕事について詳しく知りませんし、ましてや民間企業の仕事などのようなものであるかについても皆目見当がつきませんでした。「教員が学校でキャリア・進路指導に携わるにあたって、一般社会（特に民間企業）のことを知らなさすぎるのは教育的にどうなのか？」そのように思うことが多くなり、私は民間企業に自分自身の身を置いてビジネスの世界を広く学びたいと考えるようになりました。そして現在は所属しているインターナショナルスクールから出向して、民間のオンライン英会話教育事業の会社で働いております。また、企業経営についてもさらに理解したいと思うようになり、3年前よりオーストラリアのBond 大学ビジネススクールのMBA コースを履修しております。

これまでの教育系のキャリアが今の民間ビジネスの仕事と比較しても、その業務内容は大きく異なるものがあります。国語教師として古文・漢文・現代文や国際バカロレアの文学の授業を教えていた頃と、今の民間事業における財務管理やマーケティング・サービス開発等の仕事とは業務内容は全く異なります。それでも、私にとって今は学校教育以外の民間ビジネスを広く知る機会を得られており、仕事において多少の困難があっても、学び甲斐のある新鮮なセカンドキャリアの生活を送ることができています。

もちろん、この先の人生において学校現場に戻りたいと思う時が来るかもしれません。しかしながら、人生は一度きりであり、自分の悔いのないように生きてみたいと思い現在のセカンドキャリアを邁進中です。当然、家族に迷惑をかけないように進路選択をしているつもりですが。

人生100年時代といわれる中で、私は今年で40歳を迎えました。読者の皆さんにも、残りの人生のライフプランはありますか？セカンドキャリアを考えてみることで、自分自身の人生を見つめ直してみませんか？

2008年 K類日本語教育専攻 卒業

2010年 教育実践創成専攻（教職大学院）修了



教員として外務省・日サウジ青年交流派遣事業の参加（サウジアラビア訪問）

## 祝 東京学芸大学創基 150 周年記念！

本年度は東京学芸大学の前身を含めて創立 150 周年を迎えました。

そこで、本学は「東京学芸大学創基 150 周年」を記念した行事を挙行了しました。

次はおもな行事のようすです。



### 栗山英樹氏特別公演 (2023 年 5 月 20 日)



栗山氏の講演（パンフレット）

5月20日（土）14：00に本学中央2号館4階S410教室においてWBC優勝監督の栗山英樹氏の特別講演がありました。当日は申込者多数のために、他の教室でのライブ配信、学外でのライブ配信もセットされました。

講演の冒頭に本学の國分充学長より東京学芸大学創基150周年記念に際して設置された「荣誉教授」称号の授与が行われました。続いて現役野球部主将から挨拶がありました。野球部グラウンドの拡張の願いが添えられると、会場がどっと沸きました。

話の中心は、選手の活躍ぶりというよりはアメリカで活躍する選手を招聘する際のやり取りや、小指を骨折した源田壮亮選手との会話、そしてダルビッシュ選手と大谷翔平選手を起用する際のぎりぎりの決断など、選手との間で交わされた「たましい」のぶつかりの様子でした（栗山氏は「たましい」という言葉を何度も発しました）。監督業は「決断すること」と「もっとも嫌な仕事をする」とにあるという栗山氏の真骨頂がそこにあったと感じました。選手との間で交わされた心のこもった対話が人を動かした。これがWBC激闘の中で見せた「侍ジャパン」各選手の躍動の源だったのだと得心しました。

講演後には多数の質問が寄せられました。今後やりたいことは？という質問に対して、「これまで見たこともない何かをゼロから始めたい」と答えたのは、栗山氏が本学卒業後に果敢にプロの世界に飛び込んだ時の気持ちに重なるものと感じました。また、ノートバー選手招聘に関しては、グローバル化する社会の流れの中での決断であったと述べ、視点の広さを伺うことができました。

最後に、教室で目立たない子どもにどう声をかける

か迷う学生から、同じように出場の機会のない選手にどう声をかけるのかと問われると、一呼吸おいて、自身も教育実習の体験から教室の様子は理解しているとした上で、「あえて声をかけない、選ばれてきた選手のプライドを尊重するから」と…。相手の気持ちや背景を十分に考えたところから絞り出された対応だったのだと実感しました。

「自分のことより、誰かが活躍してくれているのはうれしいことだ」という栗山氏が、今回、本学学生・教職員・卒業生を前に行った講演のタイトルは「人を育てる力」でした。（小澤 記）（辟雍会 HP ニュース「WBC 優勝!! 栗山英樹氏特別公演」より）



### 東京学芸大学創基 150 周年記念式典 (2023 年 11 月 4 日)

去る11月4日（土）、秋晴れの下で小金井祭が開かれていました。久しぶりに飲食の屋台が並ぶキャンパスの通りに、学生たちの祭りが盛り上がりを見せていました。そんな中、芸術館では本学創基150周年記念式典が開催されました。

創基150周年記念事業実施委員会委員長の川手圭一副学長の開会の挨拶に続いて、卒業生からのビデオをメッセージが紹介されました。WBC野球日本代表監督の栗山英樹氏、そして2024年パリオリンピック柔道（女子48kg）代表の角田夏実氏の祝辞がありました。両氏ともに今年本学荣誉賞を授与されています。

國分充学長は冒頭の挨拶で、本学の歴史について触れました。本学は戦後まもなく1949年に新制大学として開学しましたが、教員養成機関として実は1873（明治6）



挨拶する國分充学長

年の東京府小学校教則講習所の設置に辿ることができず。学長は、本学の歴史を戦前の師範学校時代を含めて連続的にとらえる視点を示して 150 周年記念の意義を示しました。現在、文部科学省より指定された教員養成フラッグシップ大学として教員養成の在り方を変革するリーダーとしての役割を担っていくとしました。そのあと、盛山正仁文部科学大臣の祝辞を安彦公齊同省大臣官房審議官（初等中等教育局担当）が代読し、また東京都教育委員会の浜 佳葉子教育長、株式会社おもちゃ王国の高谷昌宏代表取締役社長の祝辞が続きました。

（小澤一郎『辟雍会通信』No.18  
「東京学芸大学創基 150 周年記念式典」より）



来賓（左から安彦公齊氏、浜佳葉子氏、高谷昌宏氏）



## 記念シンポジウム (2023 年 11 月 4 日)

午前の創基 150 周年記念式典に続いて、午後に記念シンポジウムが開催されました。始めに、テーマ「魅力ある学校を求めて～さまざまな学校経験こそが財産～」として栗原卯田子氏（S.45 附属高等学校卒 / S.49B 類数学卒 / S.51 教育学研究科修了）の講演がありました。栗原氏は閉校が決まっていた都立水元高校の最後の校長として教育困難校での立て直し、特に教職員の意識改革に努め、そして何よりも生徒の自己肯定感を育み、3 年目には退学者ゼロを実現しました。また小石川高等学校から、あらたに中等教育学校を開設するにあたってグローバル人材育成のための教育プログラムを導入するなど、苦勞を伴いながらも数々の改革を実行しました。そして、退職後は私立の成城中学校・高等学校校長として、自身、これまで経験しなかった男子校の改革に着手しました。栗原氏はこのような経験を経たうえで、学校の魅力は「生徒や教員たちが創り上げるもの」と述べました。そして、校長の役割は、教職員・生徒に目標と道筋を示すことと語りました。どんな学校も魅力ある学校となり得るという強い信念を感じました。

そのあとのパネルディスカッション「東京学芸大学で学んだこと及びこれからの東京学芸大学に期待するこ



講演する栗原卯田子氏

と」には 5 名のパネリストが登場しました。大村幸子氏（H31 教育学研究科修了、R5 連合大学院終了）は、現在附属小金井小学校からお茶の水女子大学附属小学校に出向中。小金井小学校はとても自由な校風。楽しいと思える学校づくりを目指している。附属での教育実習の体験がタフな人間作りに役立っている、と言います。増淵優花氏（H24 D 類養護教育卒、R5 教職大学院修了）は、学芸大学は魅力ある大学であり、学生には自分の強みを見つけてほしいと言います。葉一氏（H19 A 類数学卒）は YouTube に授業を投稿して 12 年のキャリアを持ち、学校以外での学びの場を提供しています。子供たちへの熱い思いを語りながら、教員にはキラキラ輝いてほしいと言います。清田浩伸氏（S61 A 類保健体育卒）は、現在埼玉栄高等学校の教諭で、オリンピックの陸上選手を育てるなどアマチュアスポーツ指導の第一人者として有名です。指導者としては、大学時代に鍛えられた観察力が大事と振り返りました。フロアからも賛同の声が聞こえました。安武由利子氏（H18 F 類環境教育卒、H20 教育学研究科修了）は、博物館学芸員として子供向けのプログラムを展開していますが、大学時代から考古学に興味を持ち発掘作業を行った経験をいかし、史跡中里貝塚の整備活用事業に携わっています。これらの体験を通じて多様な人との出会いの中で、互いにリスペクトしていく姿勢が大切と後輩に向けてメッセージを送りました。

5 人の卒業生からは、学芸大生の教育力、人間力が豊かに備わっていると感じ、またそうした人間を育む小金井キャンパスの大学力もあらためて見直した思いです。本学のこれからについては、学生にとってさらに魅力的な大学づくりが求められていると感じました。コーディネーターは佐々木幸寿副学長でした。

（小澤一郎）



左から進行役の佐々木幸寿副学長、そしてパネリスト（大村幸子氏、増淵優花氏、葉一氏、清田浩伸氏、安武由利子氏）

## モンサマイザコミュニティ 中学校 (ボツワナ)

2023年9月12日(火)  
17:00～18:15 [学内オンライン]

ジョージ・ムベハ校長、1～4年生(8名)、  
長谷川正(辟雍会)、荒川悦雄(辟雍会)、  
濱田豊彦(大学)、原田和雄(大学)



## 辟雍会と東京学芸大学の共催事業 ＜近県学校訪問＞が4年ぶりに開催された

### 成蹊小学校 (武蔵野市)

2023年9月21日(木)  
10:00～13:30

跡部 清校長、1～院1年生(16名)、  
小澤一郎(辟雍会)、二宮修治(辟雍会)、  
Vogel Wolfgang(大学)





### 富士見市立諏訪小学校（埼玉県）

2023年9月26日（火）

10:00～15:30

石井勝博校長、1～4年生（19名）、  
臼木信子（辟雍会）、二宮修治（辟雍会）  
前田 優（大学）

近県学校訪問は辟雍会と東京学芸大学の共催事業として2017年度に開始され、2019年度まで3年間続きました。コロナ期の3年間の休止を経たのちに、今年度に再開されました。待ちに待った学生たちも多かったことと思います。今年度の企画は4コースです。オンラインで行われたボツワナの学校との交信が新しい企画でした。その他は埼玉県の公立小学校、そして都内の私立学校2校で企画され、実施されました。



### 文化学園大学杉並中学・高等学校（杉並区）

2023年10月10日（火）

10:00～13:30

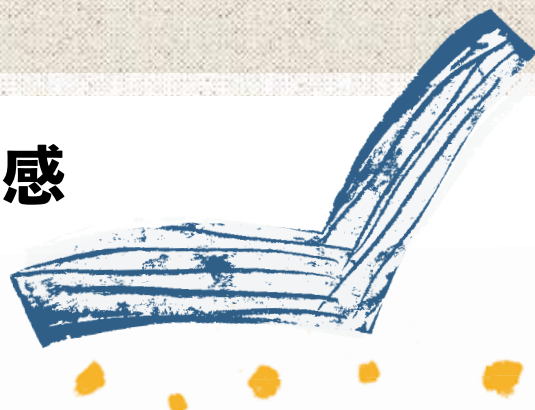
松谷茂校長、1～4年生（19名）、小澤一郎（辟雍会）、  
荒川悦雄（辟雍会）、前田 優（大学）



# コロナ下の生活 雑感

元東京学芸大学理事・副学長（前辟雍会会長）

馬淵 貞利



2020年の春から始まったコロナ・ウイルスの大流行は、多くの人びとを恐怖の淵に陥れ、人類史に残る事態を生起させた。私は日本政府がコロナ対策を大幅に縮小した昨秋（2023年9月）になって皮肉にもコロナに罹患したが、六度もワクチン注射を受けたお蔭か、それともコロナ・ウイルス自体が弱体化したせいか、比較的軽微な症状が出ただけで済んだ。後遺症も今のところ出ていない。ただ、今や全く問題にされなくなったものの、コロナ・ウイルスの感染者は後を絶たず、注意するに越したことはない。

ところで、このコロナ・ウイルスの流行は私たちの生活スタイルをも大きく変えるものとなった。大学でもオンライン授業が常態化し、対面授業をほとんど受けることなく卒業する学生さえ生み出した。学会等の会議も例外なくオンライン形式になり、いわゆる「働き方改革」なるものが進んで、自宅でデスクワークする人も多くなった。そのため大容量の作業スペースが不要となり、貸ビルからの撤退が相次いでいる。私の住んでいる周辺では学生や若い人向けのアパートから住人の姿が消えて閑古鳥が鳴いている。

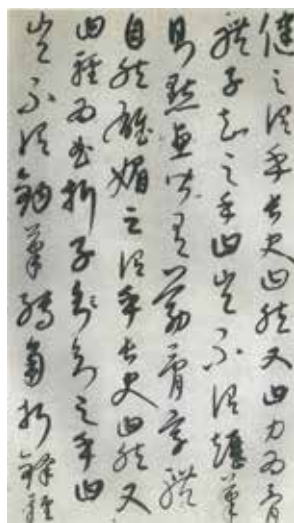
コロナ発生とほとんど同時期に会長職を退いた私は、この間の辟雍会活動の様子を機関誌「辟雍」や「辟雍会通信」を通して仄聞する程度であったが、長谷川会長をはじめ関係者の方がたのご苦労はさぞかしであったと思う。各種の集会や懇親会は自粛を余儀なくされ、意見交換もできないような状態で支部の活動も困難であったと推察する。今後の辟雍会には、コロナ下で変容した生活スタイルに合わせた新しいコミュニケーションの場を創造することが求められているように思う。

自宅に籠る生活が多くなった私は、これまで本格的に取り組んだことのなかった古文書や書の古典の学習を始めることにした。府中市や多摩市の図書館に通いつめて関連図書を漁り、神田の古本屋街にも何度か足を運んだ。そうして入手した古

文書や古典を書写することが日課となり、週に2本の割合でボールペンを消費して何十冊もの書写ノートができ上がった。その過程で意外なことも知り得た。ボールペンの機能が急速に多様化・高度化して、とても書きやすくなっていること、それがまたほとんど百円ショップで購入できること、さらには同様に良質で多彩なノートが百円ショップの棚にずらりと並んでいることなどである。日本はいわば優れた文房具の王国である。「コロナ明け」と同時に急増している外国人の目が百円ショップにも向き始めているというニュース報道にも合点がいく。

ひたすら書き写すという単純作業を繰り返しているうちに、漢字にしても仮名にしても、いつの時代にもその書風が短期間のあいだに確実に変化していることに気づいた。そこには優れた伝統を継承していこうとする姿勢と、惰性化した書法を思い切って打ち破ろうとする意思とが、時には激しい葛藤を引き起こし、また時にはさりげなく融合する様子が垣間見られたのである。一般に、こうした変革を担った能書家たちを、後世の人びとが一括りにして範とするようになった。たとえば

中国では、書聖と呼ばれる東晋の書家王羲之<sup>おうぎし</sup>（307～365）とその子王献之<sup>おうけんし</sup>（344～388）を「二王」と呼び、それから約2世紀後には欧陽詢<sup>おうようじゅん</sup>（557～641）、虞世南<sup>ぐせいなん</sup>（558～638）、褚遂良<sup>ちょすいりょう</sup>（596～658）の「初唐の三大家」が現れ、これに中唐の顔真卿<sup>がんしんけい</sup>（709～785）を併せて「唐の四大家」と呼ぶといった具合である。日本では、



康里子山の書  
（張旭筆法記卷の部分）



藤原俊成 日野切

平安初期の空海<sup>くうかい</sup> (774 ~ 835)、嵯峨天皇<sup>さか</sup> (786 ~ 842)、橘逸勢<sup>たちばなのはやなり</sup> (782? ~ 842) が「三筆」と呼ばれ、平安中期の小野道風<sup>おののとうふう</sup> (894 ~ 966)、藤原佐理<sup>ふじわらのすけまさ</sup> (944 ~ 998)、藤原行成<sup>ふじわらのゆきなり</sup> (972 ~ 1027) の3人は「三蹟」と呼ばれた。こうした

人びとは異なる個性的な書風を打ち立てた人も少なくない。なかでも私が感銘を受けたのは、狂草という大変難解な書体を生み出した中唐の張旭<sup>ちやうきよく</sup> (生没年不詳) や懷素<sup>かいそ</sup> (725? ~ 785?) の書であり、藤原佐理の詫び状や元代の色目人官僚・康里子山<sup>こうりしざん</sup> (1295 ~ 1345) の書である。他に藤原俊成、定家親子<sup>さいぎょうりょうかん</sup> や西行、良寛らの書も魅力的である。伝統の継承と革新という一見相矛盾するような営為の積み重ねによって書の世界はでき上がっている。私たちの活動もこのようにありたいものである。

また、私は多くの書の作品群を通して印象深い言葉や逸話に接することができた。これまであまり気にとめなかった「千字文」の中にもそれはあった。中国の梁の時代に、王羲之の書の中から選り出した千字を周興嗣<sup>しゅうこうし</sup> (470? ~ 521) が整然たる詩文に仕立てたのが「千字文」である。神田で買い求めた智永<sup>ちえい</sup> (生没年不詳、南朝陳及び隋代の僧) の手になる「真草千字文」(楷書と草書を並書したもの) や懷素の「草書千字文」を臨書していて、次の一句に遭遇した。

罔談彼短 靡恃己長

(ぼうだんひたん びじきちょう) \* 漢音読み  
かの短なるを談ずるなかれ  
己の長なるを恃むなかれ

何事につけ、「自分をおごるな」というこの戒めにも似た言葉は神妙に聞くべき響きを持っている。それにも増して他者を思いやる心を持つことの必要を説いたこの句の前段は、今日の世界に厳しく

問いかけているようにも思われる。昨今の世界では、極端に国粹主義的な言動を憚らない指導者や自己保身に汲々として苦しい弁明を繰り返す政治家があまりにも多い。そうした中で、世界一の少子化率を記録し、子供に対する教育熱が募っている韓国では、「学父母」(保護者)の過激な言動によって教師が自殺する事態も発生している。日本とて例外ではない。低賃金・重労働で学校がブラック職場化しているような状況は早く改善されなければならない。

かつてアジア研究教室の私のゼミに、生活綴り方運動の植民地朝鮮における展開を卒業論文で論じた学生がいた。彼女は、子供自身の自発的学習意欲を生活に根差したところから引き出そうとするこの教育運動が、日本で開始されると間もなく朝鮮でも大きな反響を呼んで広がっていったことを明らかにした。最近、こうした児童中心主義の精神が曲解されているようにも思われる。個性を尊重することと利己的になることは違うのである。

先ほどの千字文について付言すると、もう40年近くも前のことであるが、私はソウルへ行くたびに必ずといってよいほど仁寺洞<sup>インサドン</sup>にあった通文館<sup>トングムン</sup>や承文閣<sup>スンムンダク</sup>という古本屋を覗いていた。そこには朝鮮王朝時代の古書が、まるで反古のように埃をかぶって、うず高く積まれていた。その中に何冊もの「千字文」があったことを覚えている。当時は朝鮮の子供たちが書堂<sup>ソダツ</sup>(日本の寺子屋のようなもの)で漢字を学ぶ時のお手本としか考えなかったが、これは、朝鮮半島で版刻され直して流布してきた朝鮮教育史上の貴重な史料であることに今になって気がついた。若い人たちの後考を待ちたい。



ソウル仁寺洞風景 : かつての古本屋街は姿を消し、土産物店や飲食店がひしめく観光名所になっている

## 2023年度 各部活動報告

### ● 総務部

総務部は次の6項目を柱に、全体的な連絡調整を行っています。

- 1 全国代表者会議，理事会，幹事会の開催
  - ・全国代表者会議（2023年11月3日開催）
  - ・理事会（2023年5月27日開催）
  - ・運営委員会・幹事会（随時開催）
  - ・会長候補者推薦委員会（2023年9月から2024年2月まで3回開催）
- 2 東京学芸大学との連携
  - ・大学との意見交換会（2023年6月開催予定が中止）
  - ・お花見の会（2023年4月開催予定が中止）
- 3 既存の卒業生組織等との連携（総会・新年会等）
  - ・一般社団法人東京学芸大学同窓会総会（2023年6月4日S410教室で開催）
  - ・一般社団法人東京学芸大学同窓会新年祝賀会（2024年1月21日開催）
- 4 新規会員の入会手続き及び名簿管理業務
- 5 辟雍第20号，予算書，決算書，事業計画書等の発送
- 6 規程等の整備・見直し
  - ・修学支援金貸与に関する要項の一部改正
  - ・辟雍会会則の一部改正

（総務部長 手塚 穰治）

### ● 会計部

会計部は予算の作成及び執行を中心に次の活動を行っています。

- 1 予算の適正かつ効率的な執行
- 2 2024年度予算の計画
- 3 的確な会計事務の実施

（会計部長 清水 研司）

### ● 広報部

広報部は次の3項目を柱に活動しています。

- 1 機関誌『辟雍』（第20号）の発刊
  - 印刷・製本2,500部（新入生・新卒業生・希望者）
- 2 大学行事での広報活動
  - 辟雍会紹介リーフレットの作成（2,000部）
- 3 辟雍会通信の発行
  - No.14（2023/4/26），No.15（2023/6/14），No.16（2023/7/12）
  - No.17（2023/9/30），No.18（2023/11/15）

（広報部長 小澤一郎）





## ● 組織部

組織部は昨年度に引き続き、会の組織拡大に努めました。

### 1 組織拡大事業

#### ①支部設立事業

2023 年 4 月 1 日に近畿支部から移行して兵庫県支部を設立、  
2023 年 12 月 3 日長野県支部総会開催、京都府、山形県、  
沖縄県の各支部設立準備中

#### ②既存支部の総会、会合等と連携

2023 年 11 月 23 日神奈川県支部総会、2024 年 1 月 27 日  
大分県支部総会に出席

#### ③卒業・修了生への記念品配付と既存支部の案内

2023 年 9 月 29 日及び 2024 年 3 月 19 日配付

#### ④新入生未納入者への会費納入依頼

2023 年 7 月 13 日に 480 通発送、12 月 25 日までに 21 名が納入

#### ⑤リエゾンオフィスの管理

6 団体（約 500 名）が登録

（組織部長 二宮修治）

## ● 事業部

事業部は学校訪問事業を再開し、新事業を構想中。

### 1 学生のキャリア支援事業

#### ・学生の辟雍会学校訪問事業

ボツワナ共和国中学校（オンライン訪問）（2023 年 9 月 12 日）  
都内の私立小学校、私立中学・高等学校（2023 年 9 月 21 日、  
10 月 10 日）  
埼玉県内の公立小学校（2023 年 9 月 26 日）

### 2 会員支援事業

#### ・学生企画事業の支援

#### ・在学生のリエゾンオフィス登録団体設立支援

### 3 ホームカミングデー共催事業

### 4 東京学芸大学創基 150 周年記念行事支援

### 5 東京学芸大学辟雍会創立 20 周年記念行事の検討

### 6 キャンパス環境充実支援事業

### 7 東京学芸大学辟雍会修学支援金貸与事業

### 8 構内共用ピアノ設置事業

### 9 施設計画事業（調整中）

（事業部長 荒川悦雄）

## ● 情報化推進部

情報化推進部は会員からの情報発信により辟雍会を盛り立てます。

### 1 ホームページの管理・運営

- ・ホームページのリニューアルに向けた検討
- ・ウェブサイト等の運営規程（案）の検討
- ・サーバーの維持・管理計画の検討

### 2 オンライン会議の整備

（情報化推進部長 荒川悦雄）



アカマツ（県木記念植樹）（2024 年 3 月撮影）

## あとがき

新型コロナが5類へ移行した（2023 年 5 月 8 日）ことに伴って、世の中は少しずつ活気を取り戻してきました。各支部にもその動きが見られます。東京学芸大学は今年度、創基 150 周年を迎え、記念事業が種々行われました。事業のいくつかはホームページでも紹介されていますが、本誌でもその一部を掲載いたしました。

会員諸氏の活動は教育界に限りませんが、その幅広さがうかがえるとともに、根っこには教育に関して本学の学びが根底にあって、それが仕事や生き方に及んでいることがわかります。全国津々浦々に散る辟雍会員は同じような経験をしていることでしょう。本誌がそのような会員をつなぐ役割を担うことができれば幸いです。

2013 年に設立した辟雍会が今年度は 20 周年を迎えたことになります。次年度はその記念事業を行う計画です。会員同士の交流がますます盛んになることを期待しています。

小澤 一郎

東京学芸大辟雍会機関誌

# Hekiyou

2022 vol.19

|      |                |
|------|----------------|
| 発行人  | 長谷川 正          |
| 編集人  | 小澤 一郎          |
| 編集協力 | 中西 史 林 静代 大澤一美 |
| デザイン | 正木 賢一メディアラボ    |
| 印刷所  | （有）サンプロセス      |



〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1  
 20 周年記念飯島同窓会館 2 階  
 TEL/FAX 042-321-8820  
 E-Mail hekilyou@u-gakugei.ac.jp  
 ホームページ www.hekiyou.com

## さらば学大ネコ (令和5年のこと)



ミケコ  
5年

シロ  
15才



ガングロ  
15才



チビ



クロ

がんばってる!! 現役

